

# 「滋賀県下市立病院における図書室の立場」

市立長浜病院

吉 川 信 子

## I はじめに

病院図書室は院内でも間接部門であり、直接部門に比べると軽視されがちであった。

しかし、近年医学が日進月歩していく中でなくてはならない病院の一部門として重視されてきている。

病院図書室は、病院に携わるすべてのスタッフに、速やかにより正確な医療情報を提供することが目的とされ日々担当者は、この任務を遂行するため動いている。

このように病院図書室が重要視されてきている中で、当院の病院図書室をはじめ、滋賀県下市立病院図書室はどのような立場にあるか又、今後の滋賀県下市立病院図書室の運営を充実するための調査を行なったので、考察を加え意見を述べる。

## II 調査対象

四つの、滋賀県下市立病院、即ち、大津市民病院、守山市民病院、近江八幡市民病院、彦根市民病院に、アンケートを依頼し当院を含め、五つの病院の調査結果を出してみました。

## III 調査内容

内容は〔表 I〕の通りで、昨年、病図協で実施されたアンケートを参考にした。

①病院名と病床数  
職員総数(医師・看護婦・事務・その他)

### ②施設

独立したスペースを持つ

” 持たない

併設である。( )何と併設か。

### ③面積(延面積 m<sup>2</sup>)

### ④職員

◦所属課科、◦職員数(男 ) (女 )

◦専任( )人 ◦兼任( )人

◦身分(職員・臨時・パート)

### ⑤図書委員会の有無(有・無)

有の場合構成人員( )人

### ⑥蔵書

◦累計 単行書 (和書 冊)

(洋書 冊)

製本雑誌(和書 冊)

(洋書 冊)

◦年間受入数

単行書年間受入数( )冊

雑誌受入 title 数

(和雑誌( )冊)

洋雑誌( )冊)

### ⑦購入額

総額( )

単行書( )万

雑誌( )万

製本費( )万

その他( )万

} 内訳

### ⑧整理方法

分類法(NDC、NL MC、特に作成していない、その他)

目録種類（書名目録、分類目録、著者目録、件名目録、特に作成していない、その他）

⑨二次資料

（Index Medicus. Current Contents.  
Life Science 医学中央雑誌  
現行医学雑誌所在目録  
病図協医学雑誌総合目録 ← 欧文  
和文

⑩管理対象図書

（医局部門のみ、医局と看護部門のみ、  
病院全体、その他

⑪貴病院の医師は、文献入手をどのような方法で行なっているか。

⑫図書室について、何かお考えがあればお聞かせ下さい。

#### IV 結果・考察

回答は、五つの病院総てに協力が得られ、回収率百パーセントであった。

尚、他府県については、1984年に病図協で実施されたアンケートを利用させてもらい、回答の中から、九つの市立病院を参考資料とし、比較した。

（図Ⅰ）は、県下のアンケートの結果である。

（図1）は、独立した施設の有無に対し、他府県の市立病院は、9施設総て有り、県下では5施設中4施設が独立し、残りの1施設は「持たない」であった。独立した施設を持たない一病院については、アンケートから省くか迷ったが、何らかの型で配架しているのでアンケートの集計の中へ入れ検討した。

（図2）の担当者については、他府県が9施設中9施設とも専任であり、司書である。それに対し、県下では専任0で兼任4、無しが1で、司書は、0であった。このことから考えられることは、上層部の認識不足もあるが、利用者が担当者の必要性を強調しないことも一つの原因かと思われる。それには、担当者

が利用者へアピールする必要が十分にあると考えられる。

（図3）は、面積と蔵書の関係を表した。一般常識としては、面積と比例し、蔵書数も多くなると考えられる。しかし、このグラフからも得られるように、他府県の面積と滋賀県下の面積を比較すると、他府県が86.47㎡、滋賀県下では70.87㎡とあまり差は見られない。一方蔵書数を比較すると、他府県では、平均6126冊、に対し県下では2445冊と約3分の1と、大差が出てきた。やはり経済面での差が大きく影響したと考えられる。

（図4）は、雑誌受入タイトル数である。他府県の平均が、和洋を含めて135タイトル、滋賀県下では56タイトルと半分以下で、お粗末さが伺えた。その為、一番の被害者である利用者に満足なサービスが出来ない分、他の病院図書室と交流を深め、相互貸借等に打ち込みたいと思う。

（図5）は、図書の整理についてまとめてみました。作成している目録の種類は、他府県が多いところで4種類、少ないところで2種類、それに対し、滋賀県下では、他府県の最低が県下の最高で、多くて2種類、少なくとも0種類、すなわち作成していない。この項では、管理面でいかにずさんな姿勢かが伺えた。

（図6）は、予算の比較です。他府県や滋賀県下だけの平均図書費を算出する方法もありますが規模により大きく違ってくるので、各々の病院で職員一人当りの図書費をもとめ、他府県と滋賀県下を比較した。職員は、臨時職員も含めた数である。他府県では、一人当りの平均図書費が10,641円で、滋賀県下では6,920円と他府県、100に対し、滋賀県下では65となる。このように図書室運営に欠かせない予算をせめて、他府県の平均値程に獲得したいと考えるが、これからは、徐々に上層部等に図書室の必要性を強調し、納得してもらった上で、図書室運営の充実をはかりたいと考える。

(図7) 図書委員会については、5病院中、有が2、無が3で、有の中には、名前だけで活動はしないという厳しい結果となった。又、最後にこれからの図書室について、何か考えを述べてもらったところ、図書のなかった病

院では、今度の新築の時点で、設置を考えたといと回答があり、又、2病院より、将来オンラインシステムを考えていると回答があり、前向きな担当者から、協力し合い、発展の糸口をみい出したい。

(表II)

1. 病床数 平均 356.8 (最小 155、最大 490)	8. 図書費 平均 2,756,000 円
2. 職員総数 平均 379 人 医師平均 40.8 人 看護婦平均 174 人	9. 二次資料 Current Contents 1. Life Science 1. 医学中央雑誌 4. 現行医学雑誌所在目録 1. 病図協医学雑誌総合目録 1.
3. 職員身分 所属 医事課 1人 庶務課 3人 無 1人 専任 0人、兼任 4人、無 1人 身分 職員3人、臨時1人、無1人	10. 整理方法 (分類) NLMC 2、NDC 1、なし 2 (目録) 2種類 2、1種類 1、なし 2
4. 独立したスペースを持っているか 有 4 ・ 無 1	11. 文献入手方法 Propa を通じて 3 わからない 1 Personol な経路 1
5. 面積 平均 70.87 m <sup>2</sup>	12. 図書委員会 有 2 無 3
6. 蔵書 平均 2445 冊	
7. 年間受入図書 平均 56 タイトル	

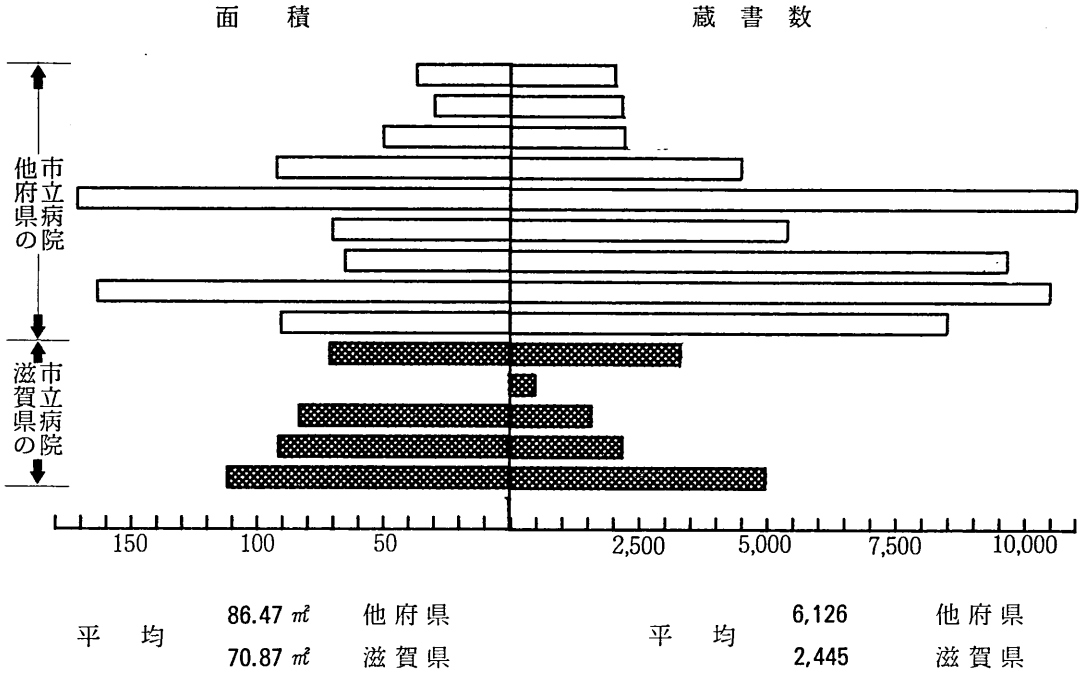
独立した施設の有無 (図1)

	有	無
他府県の市立病院	9	—
滋賀県の市立病院	4	1

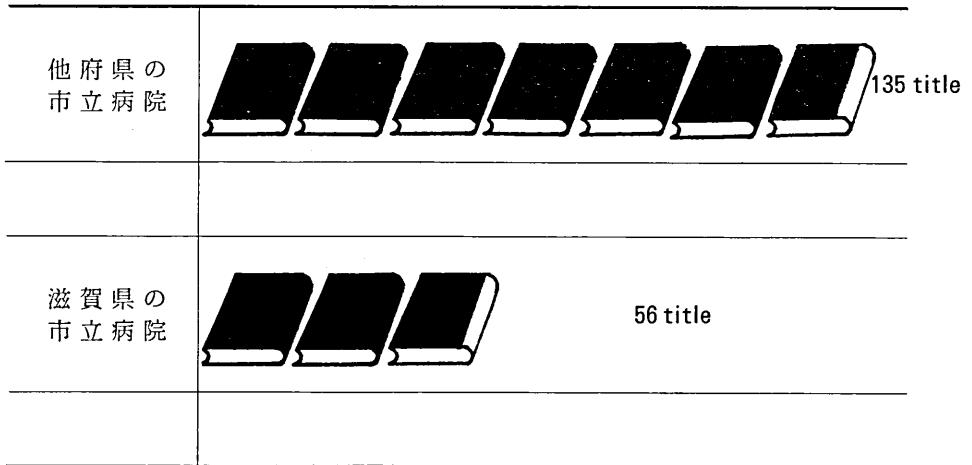
担当者の内訳 (図2)

		司書	非司書
他府立 市の 病院 の 院	専任	9	—
	兼任	—	—
	無	—	—
滋賀立 市の 病院 の 院	専任	—	—
	兼任	—	4
	無	—	1

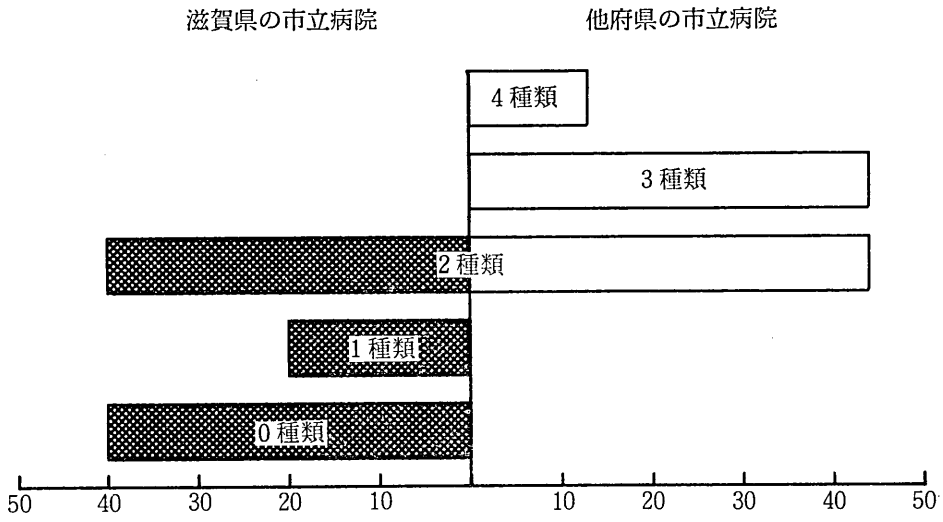
面積と蔵書の関係 (図3)



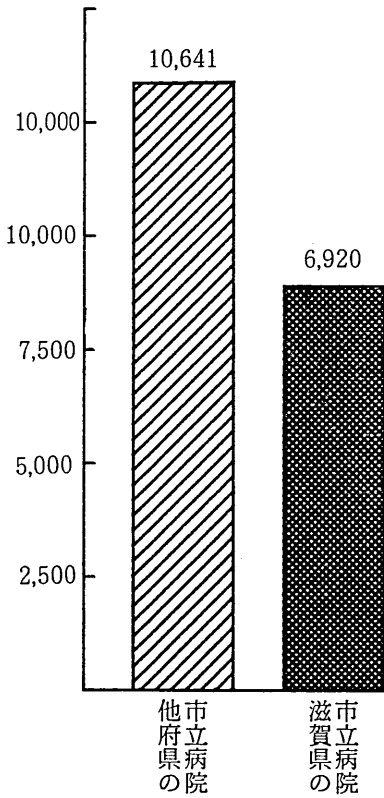
平均受入タイトルの比較 (図4)



目録カード作成数 (図5)



職員一人当たりの平均図書費 (図6)



図書委員会の有無 (図7)

	有	無
他府県の市立病院	9	—
滋賀県の市立病院	2	3

## V 今後の課題

以上みてきたことから滋賀県下の市立病院図書室の今後の課題は以下の点である。

一般的に市立病院図書室は、その規模や地域で果す役割に比して整備が不十分な傾向にある。又、図書室間の格差も大きい。特に、滋賀県下の市立病院図書室の実態は、大変貧弱である。しかし、それに甘んじていてはいけない。なぜなら病院図書室は、医療を担っていく、医師・看護婦・その他のパラメディカル総てに、診断・治療の手助けとして情報を提供しなければならない。それには、十分な情報を貯える機能が必要である。さらに、利用者との情報交換も必要とする。

地方病院である私達の県下市立病院が、今後、益々発展し充実するには、病院上層部や

図書室利用者から与えられた要求だけを処理するのではなく、担当者自ら病院図書室の必要性を積極的にPRしていくことが、当面の課題とされる。

又、滋賀県下市立病院担当者が、一丸となり協力・連絡し合って、年数回研修の場を持ち病図協活動にも積極的に参加してゆくなど担当者の資質向上も重要な課題と考える。

尚、未熟な者同志が、研修を重ねても図書室は発展しません。今後は、滋賀県下の病院図書室の先端をゆく方々をはじめ、近畿病院図書室協議会の御指導を仰ぎ、病院とともに、その重要性をさらに認識するよう努力したい。

今回の調査に当たっては、近畿病院図書室協議会と滋賀県下市立病院図書室担当者の御協力に深く感謝致します。